

京まち工房



SUMMER
情報交流誌

no.

23

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

応援します「市民が主役のまちづくり」

～景観・まちづくり活動の新しい拠点がオープンします～



菊浜小学校跡地（河原町五条下る東側）に建設された京都市の施設「ひと・まち交流館 京都」内「京都市景観・まちづくりセンター」が、いよいよ6月23日（月）にオープンします。

「ひと・まち交流館 京都」1階には、京都のまちづくりの歴史に楽しく触れることができる常設展示施設「京のまちかど」があります。

地下1階にある「京都市景観・まちづくりセンター」には、ワークショップルーム、相談室をはじめ、まちづくり工房、まちづくり交流サロン、図書コーナー、事務室があります。

これまで、財団法人京都市景観・まちづくりセンターでは、

住民、企業、行政等様々な方々との連携や協働の取組によって多くの成果を蓄積することができました。これからもそれらの成果を財産に、また、これまで以上に成果を蓄積することができるように、新しい活動拠点から、景観・まちづくり活動が一層促進されるような多様な事業を展開していきたいと考えています。

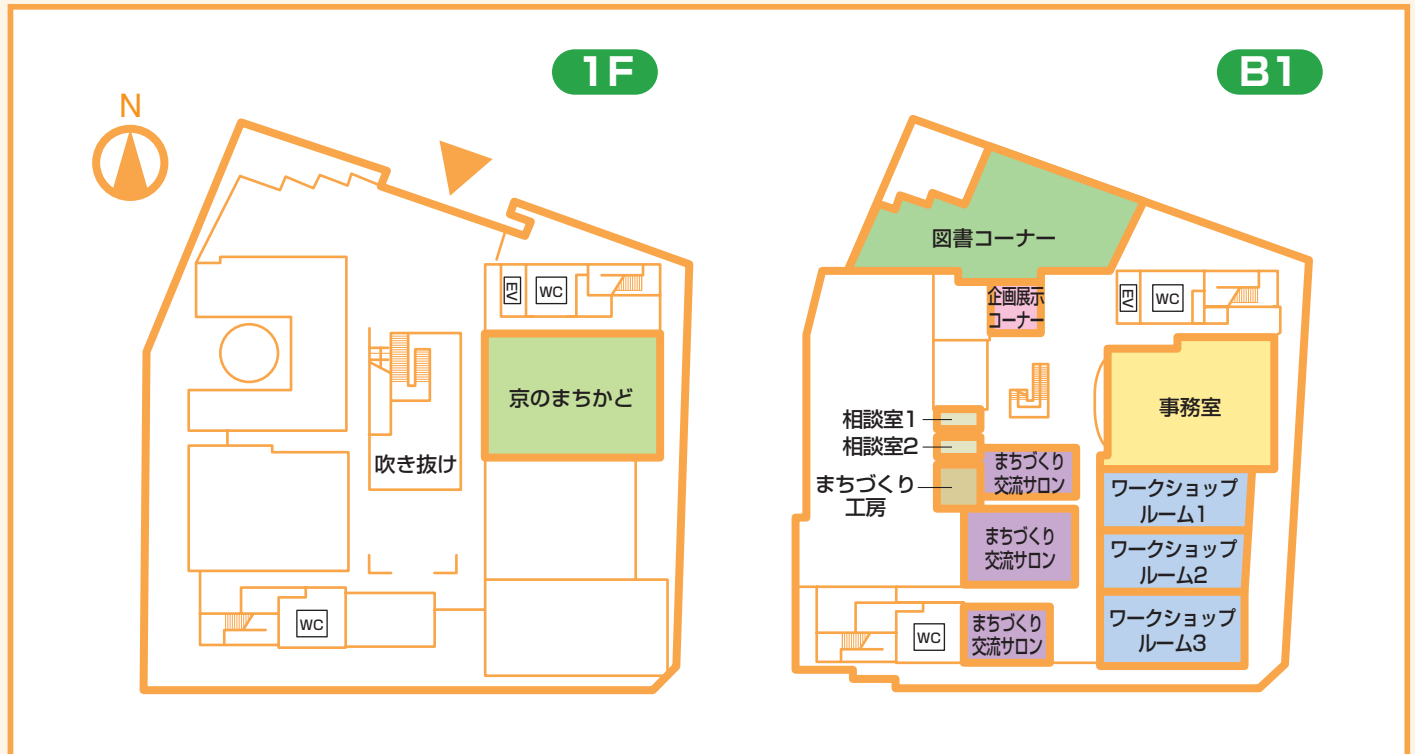
本財団が実施する事業に参加していただくだけでなく、景観・まちづくり活動の主人公である住民のみなさんに、いつでも気軽にお越しいただき、さらに新しい交流がどんどん生まれていくことを願っています。

京都市景観・まちづくりセンターを、どうぞご活用ください。

京都市景観・まちづくりセンター施設の概要

平成15年6月、菊浜小学校跡地(河原町五条下る東側)にオープンする「ひと・まち交流館 京都」内の京都市景観・まちづくりセンターの施設の概要を紹介します。

施設紹介



■ 相談室 (2室)

地域のまちづくりをはじめ、京町家、マンション、袋路等について相談に応じます。センター職員による各種アドバイスや情報提供だけでなく、京町家専門相談員による京町家なんでも相談も行います。

■ まちづくり交流サロン

広々とした空間に机と椅子があり、常に開かれた場所になっています。まちづくりに取り組む団体や市民の方々の交流の場所として、ちょっとした待ち合わせや打ち合わせなどにご活用ください。

■ 図書コーナー

まちづくりや京町家に関する図書をはじめ、市民活動やボランティア活動、福祉関係の幅広い文献等約1万冊をそろえ、貸出しを行います。またインターネットからも情報検索ができるよう、自由に利用できるパソコンも設置しています。

■ まちづくり工房

コピー機や印刷機、紙折機等の製本機器、パソコンやプリンター等を用意しています。地域の広報誌やチラシ、冊子や資料作成にご活用ください。



■ ワークショッブルーム

(50人×3室、間仕切り可動)

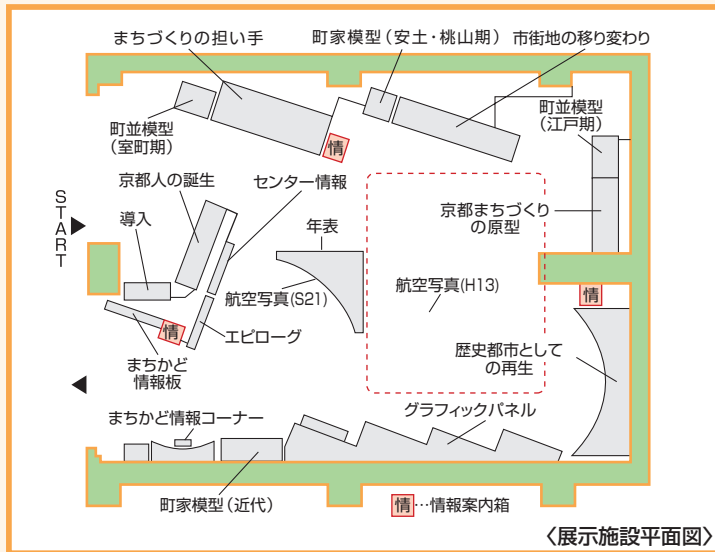
センターで実施する景観・まちづくりに関する各種セミナーや、シンポジウム等の会場として活用していきます。小人数のセミナーから大人数のセミナーまで対応できます。

展示施設

「京のまちかど」(1F)

平安時代から現代までの京都のまちづくりの流れを、模型、ビデオ、パネル等を活用してわかりやすく展示しています。中央の床面には陶板で作られた平成13年の航空写真、中央壁面には昭和21年の航空写真が貼られていますので、みなさんがお住まいの地域、活動されている地域を探してみてください。また、室町、安土・桃山、江戸、近代と当時の京町家・町並の様子を模型でわかりやすく展示しています。

情報案内箱では、京都のまちづくりの様子や暮らしの変遷についてタッチパネルで紹介します。



開所時間、休所日		
区分	開所時間	休所日
<ul style="list-style-type: none"> 京のまちかど まちづくり交流サロン ワークショップルーム 相談室 事務室 	9:00～21:30(月曜～土曜) ※9:00～17:00(日、祝日)	12/29～12/31、 1/1～1/4 毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたる日は 翌日)
<ul style="list-style-type: none"> 図書コーナー 	10:00～20:30(月曜～土曜) ※10:00～17:00(日、祝日)	

ホームページが充実!!

京都市景観・まちづくりセンターの新しいホームページです。皆様ぜひご利用ください。

URL <http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

京都市景観・まちづくりセンターのオープンに併せて、今までのホームページ「京まち工房」の内容を充実させるとともに、市民の皆様に活動の情報を登録していただき、それを発信する機能「団体・活動情報サーチ」を併せ持った情報システムを開設します。

「団体・活動情報サーチ」システムとは

「団体・活動情報サーチ」システムは、登録されたNPOやボランティア団体等(以下、団体)の景観・まちづくり活動の情報をインターネットを通じて、広く発信するシステムです。



利用登録すると多様な情報発信ができる情報発信機能が利用可能に

団体の活動内容や目的などの概要の他にも、団体が実施するイベント(セミナー、講演会、バザーなど)の案内や、ボランティアやスタッフの募集情報の発信をインターネットを通じて、手軽に行うことができます。

登録された情報は、当センターのホームページのみならず、「ひと・まち交流館 京都」内の他のセンター(市民活動総合センター・福祉ボランティアセンター・長寿すこやかセンター)のホームページからも見ることができます。

ホームページを利用して、まちづくり活動だけでなく、福祉、市民活動など幅広い分野の、探したい団体の情報を検索することができます。

発信できる情報

- **団体情報**
登録団体(景観・まちづくり活動を行うNPOやボランティア団体等)の概要
- **イベント情報**
登録団体が実施する講演会、研修、シンポジウム、展示会等に関する情報
- **ボランティア・スタッフ募集情報**
登録団体が募集するボランティアやスタッフに関する情報
- **寄付金・物品募集情報**
登録団体が募集する物品、募金、寄付金等に関する情報
- **ボランティア・人材提供情報**
登録団体が派遣・提供するボランティア等に関する情報
- **活動記録**
登録団体の活動記録



景観・まちづくり大学 開校！

～応援します！「市民が主役のまちづくり」～

京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場として、「景観・まちづくり大学」を開校し、京都の明日のまちづくりを担う市民の活動を応援します。

講座の概要

●京のまちづくり史セミナー

京都のまちづくりの歴史を学びませんか？

先人が時代に応じて暮らしを営み、育んできた、その思いや知恵を学ぶ講座です。

●展示案内ボランティアセミナー

ボランティアとして活躍しませんか？

多くの方々に京都のまちづくりの歩みに触れていただくことができる展示施設「京のまちかど」をより深く理解していただくために、わかりやすくご案内、解説するボランティアの養成講座です。

●京町家再生セミナー

京町家について不安や悩みはありませんか？

京町家をお持ちの方、お住まいの方を対象に、改修の知恵、賃貸借の注意点、日頃の手入れなど、様々な情報をご紹介します。

出前セミナー

お住まいの近くで受講していただけるよう、出前セミナーも開催する予定です。

●子どもまちづくりセミナー・学生まちづくりセミナー

京都の明日を担う、若者や子どもたちを育みます

京のまち探検隊 ～子どもまちづくりセミナー

「京のまち探検隊」隊員大募集

京都のまちの宝物をみんなで一緒に探しませんか？
さあ、どんな宝物が見つけれられるかな？

学生まちづくりセミナー

自分たちの得意分野を生かして、地域のまちづくりに携わりませんか。

地域住民の思いや地域のまちづくり活動に直接触れ、地域のまちづくりについて学びましょう。

景観・まちづくり大学の特徴

- 1 市民一人ひとりが主役です
- 2 こどもから大人まで、いろんな立場の方が参加できます
- 3 「まちづくりを実践している市民」も講師として登場します
- 4 セミナーの根幹は「京のまちづくり史」です
- 5 映像、模型、インターネットなどでまちづくりを知ることができます
- 6 皆さんの地域にも出掛けます

●京町家まちづくりセミナー

京町家の暮らしに触れ、感じてみませんか？

京町家の暮らしの工夫、京町家の歳時記、京町家を支えるたくさんの職人さんなどを知るセミナーです。

京町家を知り、触れることで、京都の大切な資源の一つを身近に感じてみませんか。

そして、京都のまちづくりの歴史に触れてみませんか。

●地域まちづくりセミナー

身近な地域まちづくりを応援します

「自分たちのまちはどんなまちか」、「どんなことができるか、どんな方法があるか」、「まちづくりとは何か」などをまちづくりの専門家と共に考える機会です。

基礎編

～誇りを持ち、安心して生き生きと暮らし続けるまちづくり～

自分たちのまちの資源を再認識し、まちの将来像を考えるセミナーです。

ステップアップ編

まちづくり活動にかかわる様々なノウハウについて、実践を通じて習得するセミナーです。

●まちづくり専門家セミナー

まちづくりを進めるには、まちづくり専門家の皆さんの役割が重要です。専門家に必要な情報を紹介し、相互の知識を補完しあうネットワークの構築を目指して開催するセミナーです。

京都情報発信セミナー

京都のまちづくりにかかわるうえで、不可欠な情報や、最新の研究成果などを共有するためのセミナーです。

まちづくり専門家交流セミナー まちづくり専門家登録セミナー

まちづくり専門家同士の情報交流の場「まちづくり専門家交流セミナー」や登録専門家講座「まちづくり専門家登録セミナー」も開催する予定です。

地域まちづくりセミナー

地域まちづくり活動のきっかけづくりを目的に開催するこのセミナーは、平成10年度以降、5回目を数えました。平成15年度からは、「景観・まちづくり大学」のセミナーの一つとして開催します。

山科区の11学区58名の方々にご参加いただいた平成14年度のセミナーでは、学区ごとに話し合い、まちづくり専門家と共にまとめた学区の将来像を次のように発表していただきました。(発表順)

鏡山学区

「安全で住みよい、これからも住み続けたい、鏡山まちづくり」を目指し、若い世代とお年寄りの方々と交流できる「鏡山こども祭」や「鏡山セフティパトロール」、環境のための廃油回収やリサイクルの取組を進めています。学生ボランティアや、財政支援のできる人、もののある人などの力をうまく借りながら取り組んでいけたらと話し合いました。

安朱学区

マンションにお住まいの方々と一緒に自治会活動ができればと考えています。まずは、山科駅前のマンションの「住宅部会」と自治連合会と顔合わせをする予定です。今後、学区内にどんなマンションがあって、自治会に入っておられるかなども調べていきたいと考えています。

西野学区

住民同士が集まれる場として小学校や団地の集会場、公会堂を活用したいと思っています。子どもを中心にしたイベントをすれば、いろいろな世代の人が集まっていただけのではないのでしょうか。学区に複数ある子ども会で協力してお祭りをするなど、学区全体が盛り上がるようなことができればいいなと考えました。



あなたのまちのまちづくり

山階学区

学区内の既存の団体をつなぐ「まちづくり委員会」のような組織をつくりたいと話し合いました。一度、自分たちの住んでいるまちを歩いてみて、まちのよさを見直したいと思っています。小さなイベントから始めて、みんなの輪を広げていこうと考えています。

音羽学区

公共バスが走らない地域があるので、学区内のボランティアで運営する循環バス「ぐるり音羽号」ができればと思います。

学区内にある「さくらひろば」や、「みんなのひろばにする会」で交流を図っていますが、今後もっと学区内の交流を深めるための取組を考えていきたいと思っています。

大塚学区

「住みよい、明るいまちづくり」を目指してまい進したいです。不法投棄が多いので、環境美化推進委員会を立ち上げ、美化活動に力を入れています。学区内で気をつけてほしいところを書いた防犯マップを配布したり、子どもの避難場所を示した看板を掲げるなど防犯にも力を入れています。また、夏祭りをを行い、人々の交流と輪づくりに励んでいます。

陵ヶ岡学区

学区内に商店がほとんどないので、高齢者も気軽に利用できるように「私たちでお店をつくろう」と、コンビニ前の駐車場等の場所を利用して、八百屋さんやお魚屋さんなどに巡回で来てもらえたらと考えました。

また、学区の名所を生かして、名物をつくって売ってはどうかというアイデアも出ました。

大宅学区

たくさんの課題のうち、今回は「防災」について考えました。迷惑駐車が多い地域、消火栓の位置、消防車のルート等を確認して現状を把握し、啓発をしたいと考えています。消防署、警察署にも相談して、連携できる場所は連携して進めていきたいと考えています。

百々学区

子どもと高齢者がふれあえるまちを目指し、子どもたちが遊べるピオトープと昔の生活を教えてもらえる「子ども昔体験村」をつくっています。つくるにあたっては、いろいろな考え方がおられ納得してもらおうのが大変ですが、たくさんの人に集まってもらいたいと、町内ごとに何度も説明会を開いて説明しています。

山階南学区

住宅地の中心に高圧電線が走っているのが心配です。要望もしていきたいので、地域の中で話し合っています。また、路上駐車が多く見通しが悪い場所がありますので、パトロールをしています。

子どもの頃から意識を高めることが大切だと思うので、地域の子どもは地域で育むという形で取組をしています。

勸修学区

勸修学区の生活は勸修学区で支えられるようになればと考えています。学区の農産物を活用し、商業施設や団地、区役所等で、みんなが利用できる朝市のようなことを、自治連が中心になってできればと考えています。



* * *

セミナー終了後も、このセミナーで話し合った内容を学区の他の方々に伝えるための報告会を開催された学区、学区版の地域まちづくりセミナーを計画されている学区など、具体的な計画を立てて活動され始めるなど、継続した取組につながっているようです。センターでは、今後も皆さんのまちづくり活動を応援していきたいと考えています。



大勢の子どもたちでにぎわう金魚のつかみどり大会

か」と話されます。

祭の最後は、自分たちで出したゴミは自分たちで持ち帰ろうと、子どもたちもゴミ拾いをしてから帰ることになっているそうです。

地域の大学と交流する

鏡山学区の特徴として、学区内にある京都薬科大学との交流があります。当初学区内にありながら、どのようなことをしているのか、よく分からない存在でしたが、大学の校舎の建替えに関して自治連合会に話が持ちかけられたのをきっかけに地域との交流が始まったそうです。

大学生が小学校の理科の授業で実験を教えたり、子どもたちが大学の構内や薬草園を見学したりしています。大学の教室で学長から小学生にお話を聞かせてもらえることもあるそうです。

安全・安心のまちに向けて

平成14年の暮れに、「鏡山セフティパトロール」と命名し、学区内の安全・安心の明るいまちづくりを目指してパトロールが発足しました。ちょうどその年の秋頃にひたたくりが続出していたため、学区の有志に呼び掛けてすぐさまパトロール隊を結成されたそうです。山科署

の署長さんや地域課長さんをはじめ、多くの署員さんからパトロール中の心得等について学び、何度も研修会・勉強会を開催しました。また、防犯推進協議会や少年補導委員会、交通安全対策協議会、消防団等の各種団体や区役所とも連携しながら10日間ほどのパトロールが行われました。この取組は今後も続けていく予定だそうです。

それぞれの人の得意分野を生かして

自治連合会の会長である小川朝治さんにお話を伺った時、「うちの学区には企画がうまい人がいます。その企画を受けてさっと段取りをしてくれる人もいます。40代、50代の若手も多く元気な学区です」と話されていました。実際にその方々にお会いして、ますますその感を強めました。人の得意分野をうまく生かし、つなぎあわせて活動をされている地域だと感じました。

次世代のまちづくりを担う子どもたちに、地域に愛着を持ち、責任を持って取り組む姿勢を伝える鏡山学区のまちづくり。子どもたちを暖かく見守る地域の大人たちのまなざしに、まちの将来を見据えた確かな意志を感じました。



鏡山学区自治連合会
会長
小川朝治氏

六兵エ池公園では、午前には幼児の声、ゲイトボールに興ずる声、午後は小学生、夕方は中学生、大人の声。皆が笑い楽しい一日を過ごしています。その公園を皆で清掃し、いつもきれいな我が学区です。幼児からお年寄りまでがゆっくり遊べ、休める公園、安心・安全に歩ける道路など、人間尊重のまちが実現できればと思っています。

そんなまちが実現するには、平日頃からの人の和を保つことが大切だと感じています。

京のまちの今昔物語

撮影場所
釜座通御池下の津軽町
(南を望む)

前号ご登場の中道さんにご紹介いただいた西村元一さんにお話を伺いました。

写真は夏の朝に毎日行われていたラジオ体操の風景。当時のラジオ体操は昭和3年に逓信省（現在の日本郵政公社）によって作られたもので、今とは異なるものでした。参加者は町内の方で、当時は誰が嫁に行ったとか、町内のことはお互いにみな知っていたとのこと。

このあたりは染色関係者が多く、写真に写っているようなオート三輪を仕事に使っていたそうです。



昭和12年頃。
列の中程の子どもが当時の西村さん。



現在の津軽町。
手前の長屋は当時から、電柱やマンホールの位置もほとんど変わらないことが驚きです。

「京のまちの今昔物語」では、昔の写真から、現在の京都について考えることができるとおもいます。皆さんのお宅のアルバムに、かつての京都をしのぶ古い写真がありましたら、是非お貸しください。

お知恵拝借～

古民家の移築による集会所づくり ～神戸市長田区御蔵通5、6、7丁目のまちづくり～

阪神淡路大震災以後、住民とボランティアが一体となって、「自分たちの手でつくるまちづくり」を実践されている神戸市長田区御蔵通5、6、7丁目からお知恵を拝借します。御蔵通5、6、7丁目「町づくり協議会」会長の田中保三さん、ボランティア団体「まち・コミュニケーション」の皆さんにお話を伺いました。

阪神淡路大震災と 土地区画整理事業

震災前の御蔵通5、6、7丁目は、長屋等が中心の下町情緒あふれるまちでした。しかし震災で家屋の8割が焼失し、かつての面影は完全に失われました。平成7年3月に御蔵通5、6、7丁目に土地区画整理事業の都市計画決定が行われ、それに基づき町づくり協議会が設立されました。住民はボランティアと共に、手探りの状態から事業内容や今後のまちづくりについて勉強会を始めました。

住民・ボランティアが一体 となったまちづくりの推進

土地区画整理事業により御蔵通5、6、7丁目は格子状のまちに変わりました。しかし、町づくり協議会では地域の絆を大切にしたまちづくりへの意識が高まり、土地区画整理事業に関する協議の場としてだけでなく、自分たちの力でまちをつくっていく協議会へと変わっていきました。また住民とボランティアとの連携が深まる中、平成8年4月にはボランティア団体「まち・コミュニケーション」が設立され、住民のまちづくり活動を支援するネットワークができました。そして土地区画整理事業によって生まれた御蔵北公園を、ワークショップ等を通じて自分たちで作りました。共同再建住宅「みくら^{ファイブ}」や慰



みんなでつくった御蔵北公園

霊モニュメントの建設も同様のプロセスで行われ、汗を流し、力を出し合って物事に取り組む経験を通じて住民相互の絆、地域への愛着が深まりました。

現在では、町づくり協議会は自治会と連携して住民主体のまちづくりのメニューを検討し、また「まち・コミュニケーション」は地域住民との連携により、コミュニティスペース「プラザ5」を運営し、ふれあい喫茶や絵手紙教室等を開催し、住民の交流の場を提供するとともに新しい地域住民がまちづくり活動に関われるようにする橋渡しの役割、他地域との情報交換やネットワークづくり等の役割を果たしています。平成14年度にはこうした取組が、防災に配慮したまちづくりに取り組む自治体やコミュニティに対して総務省から贈られる「防災まちづくり大賞」の最高賞にあたる総務大臣賞を受賞しました。

古民家移築による集会所建設

こうした活動が認められ、神戸市から用地は市が提供し、建物は自治会が所有するという形で集会所を作らないかという話が持ちかけられました。これは地域のまちづくり活動の一大プロジェクトとなりました。各地の集会所を見て回る中で古民家を移築した集会所に出会い、自分たちも懐かしくみんなが集いやすい空間だと感じたところから古民家移築による集会所建設に到りました。集会所にふさわしい古民家をボランティアとしてまちづくりに関わってくれている建築家に紹介してもらい、平成14年8月に住民約30名、ボランティア約60名の総勢約90名で兵庫県香住町まで解体に出かけました。



集会所の土壁用の土をみんなで練りました



住民とボランティアが一緒になって解体作業を行いました

平成15年4月までには住民が中心となって瓦の選別や土壁の土を練る作業も行いました。建設着工は平成15年6月の予定ですが、これからもみんなで汗を流し、力を合わせて作業を行う予定です。

これからの まちづくりについて

今までは土地区画整理法に基づく町づくり協議会が中心となってまちづくりが進められてきましたが、この協議会は事業の終了とともに解散予定です。今まで培ってきた活動の成果、住民とボランティアが一体となったまちづくりは、今後は自治会に引き継いでいきたいと考えておられます。

お話を伺って、自分たちの手を動かし、互いにできることを持ち寄ってまちをつくっていくことの充実感を感じるとともに、住民参加から住民主体のまちづくりへと進んでいく過程を見たような気がします。その中で、地域に根ざした住民と、多様なネットワークを持ったボランティアとの連携のあり方が重要ではないかと感じました。

京町家の保全・再生の事例

～京町家での暮らしを発信～

京・町家文化館 (上京区)

上京区の智恵光院通下立売を西へ向かうと、まるで異次元の山里を見るかのような古い苔むした水車が回っているのが目に入る。隣には現在でも職住共存で商売をされている山中油店があり、その向かいに「京・町家文化館」がある。

この京町家は、以前は所有者である山中油店さんが貸家とされていたもので、平成14年5月に改修を終え、「京・町家文化館」として新たにオープンした。

「京・町家文化館」への生まれ変わりは、副館主で山中油店(5代目山中平三氏)の長女である高島恵美子さんの「京町家の暮らし・文化を広く多くの人に知ってほしい」という想いから始まった。手の入れられていなかった京町家をレストランやカフェとして新しく活用することも京町家の保全・再生として大切だが、京町家で培われてきた文化や暮らしを伝えていくことも大切ではないかと感じたとのこと。当初はそのまま貸家とする話もあったが、高島さんの文化的な情報発信の拠点として使いたいという熱意から、「京・町家文化館」がオープンする運びとなった。

オープン以来、京町家について知りたいという来訪者や外国からの来訪者も多く、新しい出会いと共に京町家における暮らしを実際に目で見て、触って、感じながら学ぶところが多いという声に喜んでいとお聞きした。夏でも風が通るので冷房が要らないこと、京町家での暮らしやしきたり、古い京町家ならではの素材の持つ様々な生活の音、重々しい鍵の音など、高島さんから京町家での暮らしについて実感のこもった説明と、現在も生活の場として使われている山中油店での職住共存の様子も説明を聞かせていただける。平成15年4月からはそれま



で随時見学を受け付けていたのを、月・金曜日の週2回を開館日として予約制で見学を受け付けることも始められた。また月1回、「京・町家文化館」を主会場として京都の文化と歴史に関する講座も開講されている。かつてこの地域周辺は、平安時代から江戸時代にかけて由緒ある建物が建っていたこともまだ知られておらず、地域の人も地域の歴史について学ぶべきことが多いと認識されている。地域の歴史を知ることで、地域を大事にしていこうという気持ちが生まれるのではという期待も大きな動機となって、現在、様々な機会を作って情報発信を行う一方、「京・町家文化館」前の駐車場を利用した地場産野菜を中心とした朝市、「町家カフェ」などのイベントも開催されるなど、地域のまちづくりとのかかわりも深い。^(注1)

建物は、築90年の中二階^(注2)の京町家で、むしこ窓やべんがら格子、通り庭、大戸と潜り戸など貸家として使用していた当時の庶民的な形式を残し、おくどさんの復元や、火袋をそのままに残すなど、京町家での昔ながらの暮らしを体感できるものになっている。改修にあたっては、自然素材で作られた京町家の良さを生かすために、改修素材も柿渋や漆を用いるなど細部にまで自然素材へのこだわりを見せている。改修に携わった職人さんも、自分の孫の代に京町家の改修の伝統的な技術を伝えたいという想いをもって取り組まれ、古き良きものを育む技術を新たな世代に伝えていく契機にもなった。

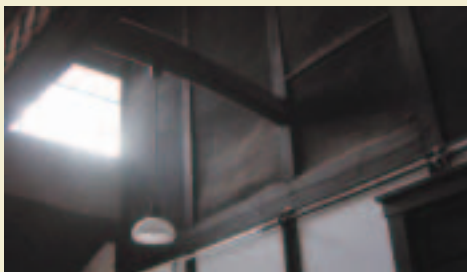
今後の抱負として、地域のまちづくり活動や、京町家の保全・再生の活動をされている方々、大学などの研究機関とも連携し、大きなネットワークの中で京町家での暮らし・文化について情報を発信し、さらに多くの人々と交流していきたいと語られた。

開館以来、約1年で延べ1,500人が訪れられたとのこと。この一帯は比較的良好に維持された町家が集まっており、「京・町家文化館」を中心に今後京都の町家文化の発信拠点として大いに発展することが期待されている。

取材に当たった当センターも、「京・町家文化館」と連携を図りながら京町家の保全・再生に向け取り組んでいければと思う。

注1：明治期までの古い京町家の多くは2階部分が低く、その2階の表構えに設けられた窓で、堅格子が土で塗りこめられており、それが虫籠のように見えることから称される。

注2：大きな荷物の搬出入のために「大戸」を、また、日常の出入りのためには大戸に設けられた「潜り戸」を利用した。



まちづくり提案

「本能学区まちづくりのしおり」の作成 ～「住みたいまち 育てたいまち 働きたいまち 本能」 であり続けるために～

本能学区では、これまでのまちづくり活動の成果の一つとして、平成14年に「地域協働型地区計画」がまとめられました。その後、この成果を多くの人に伝えるために取り組まれた「本能学区まちづくりのしおり」作成の活動について、紹介します。

「本能まちづくり委員会」の取組

平成11年12月に結成されて以来、「本能まちづくり委員会」は、「住みたいまち 育てたいまち 働きたいまち 本能」をスローガンにして、まちの資源の再発見・共有、住民交流の促進、まちなみの研究など多様な取組を進めてきました。その成果の一つとして、これまでの取組から浮かび上がった学区民のまちに対する思いを、まちづくりの目標として「地域協働型地区計画」にまとめました。現在、その計画の実現に向け、まちづくり活動を展開しています。

より多くの人により具体的に、 学区民の思いを学区民の言葉で

「本能学区まちづくりのしおり」は、地区計画の内容をわかりやすく伝えるために平成15年3月に作成されたものです。学区民が中心となり、アンケート調査や意見交換を行いながら、記載内容、表現方法など、何度も検討が重ねられました。「しおり」には、継続したまちづくり活動を通じて生まれた情熱や、より多くの人に具体的に伝えたいという思いが詰まっています。

この「しおり」は、①地区計画の方針の実現に向け、学区民一人ひとりの地域活動への積極的な参加を呼び掛ける、②学区内で建築される方へ、個々の敷地や建物は私的所有物であるが、「まち」という公共空間の構成に大きな影響力を持つものであるということを意識付け、地域の思いを設計や工事に反映してほしいと

いうことを訴えかけるとともに、本能学区の地域特性や生活文化を知る情報源として使用してもらう、という二つの目的を持っています。

しおりの内容

- 本能学区のまちづくりのしおり作成のねらい
- 本能学区の成り立ちや資源
- 本能学区の地区計画（地域協働型地区計画）の内容
- 本能学区が目指すまちの姿
- 本能学区のまちづくりの方針
- 本能学区からのお願い



本能学区が目指すまちのすがた

以前から職住一致で暮らす人々が多い本能学区は、日頃から自然と本音も言い合い、融通もきく人間関係をもとに、絆の強い自治組織があり、活発に活動しています。本能学区は、こうしたお付き合いを大切に暮らしてきた文化を、今後も大切にしていきたいと考えています。また、近年、マンションが増加し、新しくお住まいになる人は増えましたが、まずは昔から住む人とお互いにあいさつのできる関係づくりを目指しています。

一方、地域の生活を守るためには、本能学区の経済活動の活性化も大切です。経済は低迷していますが、本能学区のまちの資源の一つである染めの技術などの力を見直し、地域の特徴を様々な活動に生かそうとしています。

さらに、現在残っている昔ながらのまちの雰囲気や建物も大切にしています。これは京町家などの古い建物を残すだけでなく、「お隣さんに配慮した建て方をする文化」、また、門掃きや植栽など「通りへ配慮する文化」などを継承していくことが大切だからです。

こうした取組により、本能学区は「住みたいまち 育てたいまち 働きたいまち 本能」であり続けていきたいと考えています。

「しおり」は委員会の教科書

本能まちづくり委員会の西嶋委員長は「この『しおり』を委員会の教科書とし、更に具体的に絞り込んだ活動を進めることが大切だ」とおっしゃっています。

その具体的な活動として、人材や個々の得意分野発掘にもつながる「エコマネー（地域通貨）」や、地域の横のつながりを活用し、職住共存のまちであり続けることを目指した「地域ブランド」の構築も目標の一つにあがっています。

まちづくりに情熱を燃やす本能学区の人々が、自分たちのまちへの思いをまとめ、自分たちの言葉で多くの人に伝えていく。こうした取組は、「わがまちに誇りを持ち、安心して生き生きと暮らし続けるまちづくり」のために、一番大切なことです。こうした住民による主体的な取組が継続することによって、ますます本能学区らしいまちになると大いに期待されます。

私と京都



京都市副市長
河内 隆

“まちセン”に期待する

万華鏡——幼き頃色紙の小片の入った筒を覗きながら何度も廻しては、その都度色紙の作り出す模様の変化や色彩の妙に見入ったものである。子供心にその仕掛けが不思議であった。中学・高校の修学旅行時はおもてより観光客として訪れた京都は、常に幾つもの違った面を垣間見せてくれたが、私にとってまさに日本文化を体感させてくれる万華鏡であった。

縁あって京都に住んで5年。悠久の歴史を誇る日本人の心のふるさと、国際文化観光都市、山紫水明の都等、様々な冠が京都にはよく似合う。一方で、147万人の人々が暮らし、学び、活動する日本有数のものづくり都市・大学の街である。また、脆弱な財政基盤の下、福祉向上・産

業振興・交通渋滞解消・景観破壊対策等多くの課題に直面する現代都市でもある。住んではじめて分る「京都の光と影」、そして魅力の幅広さ・奥深さに驚嘆した。

京都の中に我が身をおいて感ずることは、これまで幾多の試練に遭遇しつつも、それぞれの時代に生まれ育った人達が、古き良きものを守りつつ新しきものを積極的に取り入れ、都市の魅力を維持する努力を不断に積み重ねてきたからこそ、今の京都があるということである。伝統を大切にする力と新しく生まれ変わる力との絶妙なブレンドが京都のまちの魅力の源泉であり、いわば万華鏡の手入れを怠らなかったからではないか。だからこそ、良好な環境・京都の魅力を次の世代に残し、更に光り輝かせることは、現代に生きる我々の責務である。

幸い京都では様々な主体が活発にまちづくり活動を展開しており、実に頼もしい限りである。よきまちづくりは住む人の地域への思いの深さに比例するといわれる所以である。ただ、これほど価値観の多様化した時代にあっては、地域への思いも一様ではない。それだけに、まちづくりには多くの時間と労力を要することになる。とりわけ大きく意見対立する問題であるほど、住民間の合意を完全には得られないとしても、せめて認識の共有化を図り、その上で

少しでも問題状況の改善を図っていく知恵を含む、合意形成に向けての地道な努力が強く求められる。

市民・NPO・企業・行政の連携の下、まちづくりを進めていく上で、各主体間のかけ橋としての役割を中核的に担うのが、(財)京都市景観・まちづくりセンター(略称まちセン)である。「ひと・まち交流館 京都」の一角に本年6月、パワーアップして登場する。これまで精力的に取り組んできた京町家保全・地区計画づくり等への支援、啓発はもとより、マンション建設問題への対応、人づくりに至るまで、大いに力を発揮して戴きたい。京都を思う全ての人々の取り組みの相互理解を深め、まちなみ資源を生かした歴史都市再生に向けてより洗練された共生・共存のシステムづくりといった新たな課題にも挑戦してほしい。京文化も多様なものが渾然一体と混じり合う中、想像を超えるような美しさに熟成され、類を見ない様式美にまで高められたのではないかと。こうした「個」を尊重しながらも相互に触発し合いまち全体を光り輝かせる京都の叡智を大切にしつつ、まちづくりのリーディングスタイルを京都から発信したいものである。“まちセン”がそのための貴重な都市装置として、まちづくりにおける万華鏡の役割を果たすことを期待する——京都が京都であり続けるために——。

《センター解説アワー》

▶ コミュニティバス

コミュニティバスとは

現在のバス交通は、増加する自動車交通の集中による幹線道路の慢性的な渋滞によって、定時性が悪化し利用者が減少し、事業者がバス路線を廃止してしまう事例が増えています。また、戦災に遭わなかった京都のような都市では、中心市街地での居住者が多いにも関わらず、道路の幅が狭く大型バスが通行できないため、バス路線のないところが多く見られます。このような公共交通

が不便な地域において、運行しているバスを、コミュニティバスと呼んでいます。高齢者や障害のある人のニーズに対応する他、大型の路線バスが入れないような細い街路に小型バスを使ったり、電気自動車を使用するなど環境保全にも寄与するなどのメリットがあります。

課題は収益構造の確立

コミュニティバスは、ほとんどの場合、事業者が採算上運行できない地区を自治体が引き受け、きめ細かい公共交通

サービスを実現する形で広がりを見せています。いずれも、ほとんどが基本的には自治体が運営するか、住民組織が主体でも自治体からの補助金を受ける運営形態をとっています。

国内で先行する事例としては「金沢ふらっとバス」(石川県金沢市)、「ムーバス」(東京都武蔵野市)などがあります。

京都では醍醐コミュニティバスが、全国で初めて、自治体の補助金を一切受けず、住民組織が100%運営することになり、新たな住民自治の表れとして注目されています。

センター語録

センターの仕事は、まちづくりに関して「無から有へのうねり」を作る、そんな「実体のないものからものを生み出す」という大変な、並大抵のことでいかない仕事という印象を持っていました。この春、実際にセンターに勤務することになり、大変なことになった、これは開き直りしかないと思い、今は元気に楽しく毎日が過ごせるよう、構えず自然体で臨もうと思っています。まちづくりという仕事は、大上段に構えようと大層だけでも、人との出会いを育む場という楽しい面もあります。

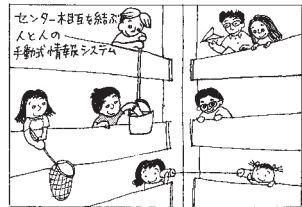
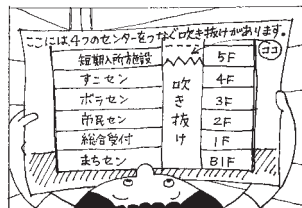
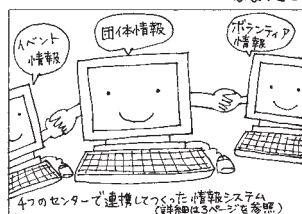
話は変わりますが、この春、子どもたちが通っていた保育園が、認可保育園となりました。産休明け保育所のなかった亀岡市で、「くわの実共同保育所」は生まれ、18年間無認可保育所として、保母と

保護者で、認可運動を繰り返す一方、運営費を捻出するためのイベントやバザーなど大変厳しい日々の中存続してきました。この度、「くわの実保育園」として認可され、我々の労苦が実を結んだことで、一種のまちづくりを達成した想いでいます。残念ながら、我が子は卒園してしまいましたが、一緒に取り組んだ仲間たちとの絆は、何物にも代えがたい財産となりました。

センターでは、これからも各地域のまちづくり活動が、より一層広がるような取組や情報の交換・発信ができる仕組みづくりなどを充実していきたいと考えています。大勢の方のセンターとなるようにしたいと思っていますので、ぜひ、お気軽にご利用ください。

(景観・まちづくりセンター事務局 Y・H)

京まちコーポno.8



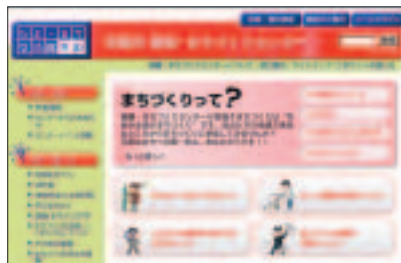
センターからのお知らせ

京まち工房 ホームページをリニューアルしました。

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

センターの取組内容をはじめ、まちづくりに関する様々な情報を発信するホームページ。平成15年6月に大幅にリニューアルして充実しました。(詳細は3ページ参照)

皆さんからのまちづくり情報もお待ちしています。



センター活動の新拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

●開館時間 (相談の受付等)

9:00 ~ 21:30 (月曜日~土曜日)

9:00 ~ 17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたるときは翌日)

年末年始 (12月29日~1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



賛助会員の募集 (平成15年度分)

平成15年度の賛助会員を募集しています。

京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

【特典】

- ・ニュースレター (年4回・季刊) の送付
- ・冊子等センター発行物の割引
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

【年会費】

個人1口：5千円 団体1口：5万円

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。